

◇妻沼聖天山の絵馬展（熊谷市）

熊谷市妻沼の妻沼聖天山本殿「歡喜院聖天堂」が平成二十四年七月に県内建造物で初めて国宝に指定されてから五周年を記念して、妻沼聖天山に寄進された絵馬や奉納額を一堂に集めた特別展「妻沼聖天山の絵馬展」を開催しました（会期は平成二十九年七月十五日から八月二十日、会場は妻沼展示館）。

神社や寺に参拝者が奉納する絵馬は、神の乗り物とされる馬を天候の安定や五穀豊穰などを祈って献上したことが起源とされ、生きた馬の代わりに馬の絵などを奉納する形態に変化しました。

安土桃山時代から次第に大型の絵馬が流行し、馬以外にも神仏や武者、物語、風俗など多様な絵柄が描かれました。江戸時代になると、有名絵師らも競って制作するようになり、参拝記念に名を残して奉納する額も多くなっていきます。

特に聖天山は関東一円から広く民衆の信仰を集め、江戸後期から昭和にかけて様々な内容の絵馬や額が奉納されました。これら約五十枚は聖天堂の内外に掲出されてきましたが、平成十五年からの平

成の保存修理工事の際に外されて境内に保管され、非公開となっていました。

同展の絵馬には「韓信の股くぐり」「川中島合戦」「七福神」など中国や日本の故事などを題材に色彩豊かに描いたものが多く、明治期の女流画家・奥原晴湖が記した「鶉羅山」や、幕末期から明治期に活躍した政治家・思想家の山岡鉄舟が明治十四年（一八八一）に納めた書の内容「歡喜天」などがあります。柔術流派を興した小沼直吉を顕彰する「武芸」は同展内で最大規模を誇り、千人を超える寄進者名が連ねられています。明治時代の聖天山を描いた複数の大絵馬は歴史資料としての価値を併せ持っています。

熊谷市教育委員会は本年五月以降、絵馬と奉納額を妻沼展示館に移し、調査と保存作業を進めてきました。その結果、絵馬と奉納額の額縁に施された精巧な彫刻の多くが国宝に指定された本殿彫刻を担当した上野国花輪村（現群馬県みどり市）の彫物師集団の流れをくむ彫物師の作品であることが分かりました。半数近くの額は群馬県の人々が奉納していたことも確認できました。

七月二十九日には同会場にて、特別観覧会として、調査・展示を担当した熊谷市立江南文化財センターの山下祐樹主任（本協会幹事）による解説会と、ヴァイオリンとピアノによる演奏会「祈りの響き」が開催されました。また熊

谷市の姉妹都市であるニュージーランド・インバーカーギル市の国際視察団も同展を観覧し、英語での解説を行いました。会期全体で約一六〇〇名の入場者数がありました。



ニュージーランド・インバーカーギル市
国際視察団の見学